

## 中国・湖南省で農地流動化は進んでいるのか —— 伝統社会を生かした新農村建設 ——

浅見 淳之

Atsuyuki ASAMI : Initiation of the Lending and Borrowing of Farmlands among Farmers in the Hunan Province of China : The New Village Construction Program Based on Traditional Society

Recently, the shortage of young laborers and destruction of farmlands are the problems that are being faced even in Chinese villages. Farmlands must be lent and borrowed, and the size of farms should be enlarged in order to resolve this problem. However, the actual conditions involved in lending and borrowing farmlands by individual farmers have not been clarified yet. We directly interviewed farmers regarding these conditions in Hunan province and analyzed the determinants of the lending and borrowing of farmlands.

The following four points can be concluded from the analysis: (1) Farmlands can be supplied and demanded on the basis of economic reasons; (2) Transaction cost problems surface during the lending and borrowing of farmland; (3) Social relationship, “Guanxi,” is an integral aspect in lending and borrowing of land to save transaction cost; (4) “Guanxi” is promoted among villagers to not only smoothen human relationships but also to facilitate economic transactions, such as lending and borrowing of land. This traditional social relationship, “Guanxi,” is expected to play a crucial role in the new village construction program, which is recently being promoted by the Chinese government.

### 1. 農民による農地流動化

2009年は改革開放が始まってから30年の節目となる。30年の間に中国の経済は大きく変わった。一方で安価な労働力を武器として中国の工業部門は世界の工場となったが、もう一方で、都市部門ばかりに目が向けられ農村は置き去りにされた。7億を超える農村民がいるにもかかわらず、都市と農村のあまりにも大きな所得格差が生み出されてしまった。しかも安価な労働力は農村の基幹的労働者の出稼ぎによる。労働も無尽蔵には農村部門から供給されない状況になりつつあり、農村では三ちゃん農業が展開する。平等的な農地分配のもとでの零細規模（約0.6ha/戸）と担い手不足という、構造的な低生産性にはまり込んでしまった。日本など工業化が進んだ国の農村が直面してきた問題であり、農業の生産構造自体が問題を抱える構造問題といわれている。

しかしこのような事態になっても、中国の農民は弾力的に対応している。自ら、農地を管理しきれなくなった農家から、大規模農家あるいは生産基地へと、「流動化」という形で農地の貸借を推し進め、効率的な生産構造をもたらしようとしているといわれている。政府も「流

動化」の重要性は認識しており、2008年10月に「農村改革・発展の推進における若干の重大な問題に関する決定」が発表された(中国共産党第17期三中全会での決定)。そこでは、「農民に請負地の占有、使用、収益などの権利を保障」し、「土地請負経営権の流動化市場を設立し、法律に基づいて自発的・有償の原則によって、請負委託、リース、交換、譲渡、株式化などの形式で土地請負経営権の流動化を農民に許可し、多種形式の適正規模経営に発展させる」としている。有償での請負権取引を政府として推し進め、請負権市場を設立していくことを宣言したものである<sup>1)</sup>。

ところが、構造問題、また三ちゃん農業が急速に展開するその速さゆえに、さらに中国の農村部があまりにも広大であるがゆえに、農民が自発的に進めている農民レベルでの流動化の実態はまだまったくつかめていない。地方政府でも、大がかりな生産基地への流動化はつかめているが、農民レベルでの流動化の実態は把握していない。原則として農地は平等配分であり、農民レベルで流動化を進めても把握することがむずかしいのである。ほとんど進んでいないという報告も、進んでいるという報告もある。まず農民レベルで、農民に直接聞いてみなければわからないのである。

無秩序に農地が流動化され、低生産性のもとで乱雑に農地が管理されるならば、中国の貴重な農地資源は破壊される。中国の将来にとって極めて危機的な問題となってくる。また、広大な面積、多くの人口を抱える中国での農地資源の破壊は、地球規模の資源保全の問題にもつながる。そこで、中南大学の学生とともに共同で農村に入り、農家に住み込んで、農民から直接、流動化の実態に関する情報を集めることにした。

流動化をとらえるに当たっては、日本でのこれまでの流動化に関する研究から、次の三点に注目してみた。第一に、流動化をもたらす農地貸借の需要と供給が実際にあるのかどうかである。第二に、流動化の取引費用がどの程度高くなっているのかである。農地貸借の需給があったとしても、農地の貸し手と借り手を結び付ける取引過程に問題があれば、流動化は進まない。取引過程の難しさを表すのは、相手の探索、相手の評価、相手との交渉などに必要な費用であり、これは「取引費用」といわれる。農地貸借のためには取引費用を節約しなければならない。第三に、取引費用を節約する、社会的要因の役割がどうなっているのかである。取引費用を節約できるのは、経済的要因よりむしろ、社会的要因である。日本農村では村落共同体が社会関係として形成されており、これが農村の人間関係をすべらかにしてきた。中国農村にも伝統的な倫理、特に礼をはじめとする儒教倫理に基づく社会関係が形成されており、これは中国社会では「関係」(guanxi)といわれている<sup>2)</sup>。これは非合理的なものではなく、むしろ経済を推し進める要因となっているのではないだろうか。伝統的倫理を生かしてこそ、流動化が進み、理想的新農村建設が進むのではないだろうか。このような問題意識に基づき、これら三つの視点から農民から直接聞き取った情報を整理・分析して、その結果を報告する。

## 2. 調査村における流動化の実態

中国有数の稲作生産地である湖南省において、長沙市近郊の3村で直接聞き取り調査を行った。湖南省は食糧生産の基地であり、適正な流動化による農地保全が特に求められる。同時に、広州をはじめとして中国南部の出稼ぎ農民の主要な供給先となっており、構造問題が典型的に現れている。調査対象は、遠隔地であるが幹線道路でつながり出稼ぎが盛んなA村、近郊であるが交通の便が悪いB村、都市化が進み都市就業ならびに都市農業も盛んなC村である。

流動化の実態は、表1のとおりである。地方機関での聞き取りでは、流動化は5%程度といわれたが、実際は、10～20%で、小組によっては35%近くまで進んでいた。予想以上に、農民自らによる流動化が進んでいることがわかった。

表1 調査村の農地流動化の実態

単位：戸、人、畝、%

		総戸数	農地 総面積	貸出				借入				小組間 貸借面積
				戸数	総戸数に占める割合	貸出面積	総面積に占める割合	戸数	総戸数に占める割合	借入面積	総面積に占める割合	
A 村	一組	44	145.51	22	50%	48.27	33%	19	43%	49.67	34%	1.4
	三組	32	117.66	11	34%	32.83	28%	10	31%	40.63	35%	7.8
	四組	39	166.87	12	31%	31.57	19%	13	33%	29.37	18%	2.2
	五組	28	105.29	2	7%	3.32	3%	2	7%	3.32	3%	0
	六組	32	105.96	10	31%	25.50	24%	8	25%	19.5	18%	6
	七組	25	76.54	10	40%	26.62	35%	7	28%	26.62	35%	0
	八組	25	100.70	5	20%	14.71	15%	6	24%	14.71	15%	0
	総計	225	818.53	72	31%	182.82	22%	65	29%	183.82	22%	17.4
B 村	一組	30	131.00	6	20%	16.64	13%	6	20%	16.64	13%	0
	二組	28	122.60	7	25%	15.64	13%	7	25%	15.64	13%	0
	三組	30	102.37	5	17%	13.66	13%	6	20%	13.66	13%	0
	四組	30	102.37	4	13%	6.92	7%	4	13%	6.92	7%	0
	五組	47	181.00	6	13%	9.22	5%	6	13%	15.62	9%	6.4
	六組	27	101.95	4	15%	14.34	14%	6	22%	22.97	23%	8.63
C 村	総計	192	741	32	17%	76.42	11%	35	18%	91.45	12%	15.03
	一組	27	75.01	2	7%	3.75	5%	2	7%	3.75	5%	0
	二組	23	78.53	1	4%	2.65	3%	1	4%	2.65	3%	0
	三組	32	86.00	4	13%	10.38	12%	3	9%	10.38	12%	0
	四組	27	85.91	5	19%	12.43	14%	3	11%	12.43	14%	0
	五組	26	63.38	2	8%	4.50	7%	2	8%	4.5	7%	0
	六組	31	97.99	4	13%	12.16	12%	1	3%	2.83	3%	9.33
	七組	39	124.00	4	10%	11.78	10%	1	3%	20.35	16%	8.57
	八組	41	126.22	3	7%	8.85	7%	2	5%	8.85	7%	0
	九組	23	83.00	3	13%	12.40	15%	2	9%	12.40	15%	0
	十組	35	95.15	4	11%	11.74	12%	3	9%	11.74	12%	0
	十一組	37	125.64	7	19%	26.64	21%	5	14%	26.64	21%	0
	十二組	36	130.19	3	8%	10.82	8%	3	8%	10.82	8%	0
	十三組	39	126.85	1	3%	3.40	3%	1	3%	3.40	3%	0
	十四組	37	96.54	1	3%	3.75	4%	1	3%	3.75	4%	0
	十五組	40	107.80	4	10%	7.66	7%	1	3%	7.66	7%	0
	十六組	29	76.52	3	10%	7.77	10%	1	3%	7.77	10%	0
	十七組	26	64.23	2	8%	2.16	3%	1	4%	47.62	74%	45.46
	十八組	24	55.63	4	17%	8.20	15%	0	0%	0	0%	8.2
	十九組	23	74.45	4	17%	13.41	18%	0	0%	0	0%	13.41
	二十組	25	88.50	4	16%	16.05	18%	0	0%	0	0%	16.05
総計		620	1862	65	11%	191	10%	33	5%	197.54	11%	101.02

注：1 小組間貸借面積とは借入面積と貸出面積の差である。

2 A村は組外借入、B村は公田借入、C村は組外借入と公田借入である。公田とは集団所有の農地を農家に配分せず、小組の共同財産として扱っている農地である。公田を農家に有料で貸出す場合、その賃料は小組の財政になる。

3 本表は共同調査者の李妍蓉が作成した。

### 3. 調査の分析視覚

これまでは、ケーススタディによって、流動化の実態と、出稼ぎが流動化をもたらしていることは紹介されてきている。しかし、それを数量的に裏付ける調査はされてこなかった。実態を正確に把握するためには、多数の標本調査による数量化が必要である。農民に、流動化やその要因に関する農民の意向の強さを4段階で聞き取ることによってデータを収集し、数量化を試みた。この調査で明らかにしようとした流動化の実態は、最初に示した3つの視点に応じて、以下の3点である。

- ①そもそも、農地の流動化が求められる農地の貸借に関する需要と供給は実際あるのか。
- ②農地の貸借を結び付ける取引費用は高くないのか。取引費用が高ければ、需給があってもそれを結び付けて取引を形成できない。取引費用として何を認識しているのだろうか。
- ③農地の流動化は、経済的要因だけで決まっているのだろうか。社会的要因、特に「関係」は関わっていないのだろうか。中国農村に固有に埋め込まれている「関係」が、農地の流動化を、取引費用の節約させることによって、流動化を支えているのではないか。

これらの点について、農民が主観的に抱いている、それぞれの総合的評価（1、2、3、4）とその理由ないし構成要因の評価（1、2、3、4）を面接で聞いた。点数が高いほどその評価が強いことを表す。そして総合的評価を高くつける農民は、いかなる理由や構成要素を高く評価しているのかを明らかにすることによって、つまり相関をテストすることによって、それぞれの視点の実態を明らかにした。農家は基本的にはランダムサンプリングで面接調査を行った。調査戸数は、A村60戸（総戸数225戸）、B村57戸（同191戸）、C村49戸（同650戸）である。なお以下の表では、\*は10%、\*\*は5%、\*\*\*は1%の有意水準を示している。

### 4. 農地流動化の要因分析

（1）農地の貸借に関する需要と供給は実際あるのか

1）農地を貸し出す要因（表2a）

農地を貸し出す意向の強さを支持しているのは、何への意向の強さなのだろうか。ファーストステップとして、意向の強さどうしの相関をOLSによって計算した。要因として、収入、労働力などに関する直接的な経済的要因と、手続き、トラブルなど取引費用要因に分けて聞いている。その結果として、A村で労働力不足、C村で非農業収入の多さが有意に正であった。つまりA、C村ともに、出稼ぎに関連した貸し出し要因が確認された。A村では出稼ぎによって農業労働が不足してきていること、C村では農外所得自体が高くなり、農地に頼らない傾向がでてきているのである。B村は、農外所得も低く貸し出しに関してははっきりした傾向

が出ていない。またいずれも取引費用に関しては、相関は認められなかった。貸し出す農家は、直接的な経済的要因によって意思決定をしており、ここに供給志向が認められる。

## 2) 農地を貸し出さない要因 (表2b)

貸し出さない要因としても、収入などに関する直接的な経済的要因と、探索、帰ってこない心配など取引費用要因に分けて聞いている。OLS によって相関をみると、A, B, C 村ともに、農業収入に依存しているからという理由が有意に正であった。いずれの村も、農業に依存している階層が依然としており、流動化は一部分にとどまっている。生活保障としての農地の請負がやはり必要とされ、一方的に農地の貸借を進めるのは問題であろう。また取引費用自体は問題視されておらず、あくまでも農業に依存しているという直接的要因によって貸し出しをしない。農地賃借の供給志向は部分的にとどまっている。

## 3) 農地を借り入れる要因 (表2c)

借り入れる要因を同様にみると、A 村では、労働力が増えたので規模拡大したいから、C 村では、借り入れ料金が無料だからが、正に有意に相関していた。農業にも依存する A 村では積極的な理由で、また十分農外所得のある C 村では消極的理由であるが、いずれも経済的理由が借り入れ要因として認められた。B 村ははっきりした傾向は見られなかった。需要志向が認められる。

## 4) 農地を借り入れない要因 (表2d)

借り入れない要因としては、A 村、B 村ともに、農外収入が十分であるからが正に相関し、農外に依存していれば当然土地を借り入れることはない。

以上の点から、経済的要因において、農地賃借の需要供給の志向が実際に認められるのである。農家レベルで、流動化が経済合理的な行動として進んできているのである。ただし生活保障としての請負農地の性格から、流動化は部分的にとどまっていることも確認された。

## (2) 農地の貸借を結び付ける取引費用は高くないのか。

経済的要因を聞いた限りでは、取引費用は意識されていなかった。しかし取引費用そのものを取り上げて、より詳しく質問をして、隠されていた取引費用に関する認識をあぶりだそうと試みた。流動化の難しさを強く感じる農家が、取引費用に関連したいかなる要因を強く感じているのかを質問した。取引費用が全く関係していなければ、なんら相関は認められないことになる。何らかの正の有意な相関があれば、やはり取引費用に関連していることが明らかになる。ファーストステップとして、まず相関を OLS によって計算した (表2e)。その結果、A 村では、探索の難しさ、トラブルでの調停による解決の煩わしさが、B 村では、農地の属性が気になることが、C 村では、探索の難しさ、属性が気になる、返却が心配が、正に有意に相関していた。属性が容易にわかると取引費用が低くなるので、その符号は負となり、C 村では有意であった。探索の難しさそのものを認識するだけでなく、属性が気になると、その属性にこだわってしまい探索が難しくなる。つまり3村とも、基本的に探索費用



が取引費用として顕在化していることがわかった。加えて A 村では交渉そのもののわずらわしさ、C 村では文書による交渉のトラブルの回避が有意であり、交渉費用も意識されていることがわかる。

表2 農地貸借の経済的要因 (OLS)

a 農地を貸し出す要因		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	農地を貸し出す意向の強さ	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		3.698	2.173**	1.287	0.375	0.254	0.222
農業収入が少ないから		-0.167	-0.986	-1.760	-2.491	0.330	1.635
非農業収入が十分あるから		-0.066	-0.395	0.013	0.094	0.502	2.750**
農業労働力が不足しているから		0.439	1.813*	-0.340	-0.541	0.028	0.134
他人に任せても補助金をもらえるから		-0.190	-1.072	-0.947	-0.978	-0.087	-0.394
農地を貸出すと、実収入になるから		-0.084	-0.550	0.440	0.839	0.125	0.731
農地を貸出す手続きが簡単だから		-0.259	-0.945	-0.060	-0.289	-0.179	-0.639
信頼関係がありトラブルが少ないから		0.075	0.407	2.947	1.969	0.354	1.403
R <sup>2</sup>		0.170		0.646		0.451	
b 農地を貸し出さない要因		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	農地を貸し出さない意向の強さ	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		1.697	2.717**	1.242	2.390**	1.328	1.359
農業収入に依存しているから		0.372	2.114**	0.475	3.481***	0.380	1.845**
返ってこない心配があるから		0.167	0.910	0.017	0.118	0.063	0.204
十分な管理をしてもらえないから		-0.016	-0.102	0.178	1.239	0.395	1.618
借り手を見つけられないから		0.064	0.399	0.015	0.107	-0.189	-0.943
R <sup>2</sup>		0.106		0.267		0.091	
c 農地を借り入れる要因		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	農地を借り入れる意向の強さ	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		-1.026	-0.917	4.683	2.519**	1.555	0.795
頼まれたので		0.143	0.761	0.031	0.090	-0.232	-0.532
補助金がほしいから		0.350	1.461	-0.653	-1.522	-0.637	-1.225
農業労働力が増えたので規模拡大したいから		0.593	4.030**	0.083	0.270	0.285	0.615
農業機械化による規模拡大したいから		0.070	0.351	0.184	0.625	-1.603	-1.628
農産物価格上昇に対応して規模拡大したいから		-0.037	-0.238	-0.125	-0.432	1.049	1.762
借入れ料金が安い、無料だから		0.384	1.497	-0.459	-1.314	1.381	2.092**
R <sup>2</sup>		0.631		0.240		0.125	
d 農地を借り入れない要因		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	農地を借り入れない意向の強さ	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		2.217	2.686	2.019	2.125	2.620	2.531**
農外収入が十分なので		0.322	1.844*	0.303	1.901*	0.191	1.004
家族労働力が不足しているから		0.019	0.125	0.153	0.888	-0.047	-0.268
農業では採算が取れないから		-0.127	-0.757	-0.072	-0.311	0.135	0.685
正式な契約がないので		0.065	0.381	0.189	0.997	-0.233	-1.011
貸し手が見つからないから		0.105	0.646	-0.176	-0.954	-0.056	-0.266
R <sup>2</sup>		-0.140		0.065		-0.670	
e 流動化の難しさの要因		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	流動化は難しいと思う強さ	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		0.731	0.947	0.234	0.224	0.213	0.378
探索が難しい		0.397	2.986***	0.211	1.365	0.375	2.639**
農地の属性が気になる		-0.069	-0.539	0.334	1.987*	0.287	2.248**
農地の属性は容易にわかる		0.033	0.216	-0.267	-1.381	-0.258	-1.932*
愛着があり交換したくない		0.045	0.318	0.060	0.390	0.107	0.779
返却が心配		0.164	0.963	0.262	1.230	-0.105	-0.626
相手の農地管理が心配		-0.084	-0.572	-0.098	-0.602	-0.109	-0.789
トラブルでは調停より自分で解決		0.283	2.259**	0.130	0.929	0.002	0.013
交渉は煩雑		-0.046	-0.331	0.034	0.179	0.042	0.301
文書契約が必要		0.011	0.084	0.224	1.666	0.315	3.094***
1年契約がよい		-0.104	-0.819	0.014	0.089	0.133	1.134
R <sup>2</sup>		0.195		0.117		0.468	

表3 取引費用のカテゴリ回帰

A 村	標準化 係数	F 値	B 村	標準化 係数	F 値	C 村	標準化 係数	F 値
探索が難しい	0.429	12.275***	探索が難しい	0.326	7.350***	探索が難しい	0.342	10.328***
愛着あり交換したくない	0.199	2.892*	属性が気になる	0.279	5.704**	属性が気になる	0.251	6.903***
返却が心配	0.167	1.949	返却が心配	0.282	5.226***	属性は容易にわかる	-0.236	5.926***
農地管理が心配	-0.163	1.773	文書契約必要	0.236	3.730*	文書契約必要	0.423	15.675***
調停より自分で解決	0.243	4.484***	調停より自分で解決	0.166	2.007	1年契約がよい	0.271	8.512***
R <sup>2</sup>	0.258		R <sup>2</sup>	0.271		R <sup>2</sup>	0.594	

OLS によっておおよその相関の傾向はわかるが、もともと1、2、3、4というカテゴリデータなので、数量化してその上で回帰分析を行ってみた（カテゴリ回帰（交互最小二乗法））。特に相関のあった要因を取り出して表3に示した。A、B、C村ではやはり探索費用が取引費用として認識されていることが確認された。さらに、B、C村では属性に関する探索費用も認識されていた。また、A村では農地への愛着と、交渉費用も取引費用となっていた。B村は返却が心配、文書契約が必要が有意で、C村では文書契約が必要、また契約の見直しが容易な1年契約が有意に正に相関している。探索費用だけでなく、交渉費用、執行費用など取引費用全般の高さが、流動化において顕在化していることが確認された。カテゴリデータの数量化を行うことでさらなる相関を見出すことができた。

### （3）農地の流動化に社会的要因、特に「関係」は関わっていないのだろうか

取引費用が高いのであれば、それを節約できるのは経済的要因ではなく社会的要因である。つまり経済的な損得を超えた、社会関係が取引を支えることによって、農地貸借の取引つまり流動化を促進させることになる。特に中国農村では、伝統的に儒教、礼に基づく社会関係が形成されている。「関係」ということができるが、これが流動化という経済取引に埋め込まれて、取引を支えているのかどうかを検討する。つまり、農地の貸借において相手は誰でもよいのではなく、血族・友人に貸し出すことに対する総合的評価と、その理由になる要因を4段階で評価づけしてもらい、OLSとカテゴリ回帰で相関をみた。

#### 1) 農地を血縁・友人に貸したい要因（表4a、b）

A村では、人情があるから、面子を失わないから、B村では、人情があるから、低料金でも血族がよい、C村では、血族なら口頭契約でもよい、が有意に正に相関していた。まず、経済的要因に関係なく、人情、面子といった「関係」そのものに関連させて貸借を行うという相関がみられた。さらに低料金といった経済的要因より社会関係を優先させるという傾向もみられる。しかし、C村で見られるように、書面ではなく口頭契約という取引費用節約のためにも、血族・友人との取引を行うという傾向も認められた。カテゴリ回帰を行うと、さらにB村の面子が有意になり、この傾向がより強く確認された。つまり、まず「関係」に関連させて血族・友人との農地貸借を行うが、それだけではなく、都市化の進んだC村では、取引費用を節約させようと「関係」を利用するために、血族・友人との貸借を行うことが確

認された。

## 2) 血縁・友人から借りたい要因 (表4c、d)

A、B、C村とも人情があるから、A村で高料金でも血族がよい、という要因が正で有意な相関を示した。つまりすべての村で、社会関係のために血族・友人との貸借を行い、A村はさらに経済よりも社会関係を重視している傾向が認められた。さらにカテゴリ回帰では次のようになった。A村とC村では人情、面子を重視し、高料金でも血縁を優先する、B村では人情の重視という、社会関係のための貸借が認められた。しかし同時にA村ではトラブルを避けられる、B村とC村では口頭契約でもよいという、取引費用節約のためにも血族・友人との貸借が望まれていることが認められた。

以上から、取引費用を節約するために「関係」が土地貸借取引に埋め込まれている実態が確認された。しかし同時に、人間関係そのもののために血族・友人との土地貸借取引をすることも認められた。

## 3) 「関係」の評価

取引に埋め込まれている社会関係は、中国農村に伝統的に形成されてきた「関係」である。それでは「関係」は、土地貸借を含め様々な経済取引と、あるいは人間関係そのものと、いかに関連しているのだろうか。これを「関係」の総合的評価と、その要因評価の相関をみることで明らかにする。

まずOLSで相関を見たところ (表4e) 「関係」は、A村では面子に裏付けられるから、さらにB村では土地貸借取引でのトラブルが少なくなるから、C村では借金のしやすさ、緊急時での助力と、正に有意に相関していた。人間関係そのものだけでなく、土地取引、金銭的取引や将来での扶助といった経済取引にも深く関連していることが確認される。

カテゴリ回帰によって相関が確認された要因を表5に示したが、A、C村では、面子や人情と相関しており、さらにA村ではユイ (労働取引)、B村では農地貸借 (土地取引)、借金 (資本取引) や将来の扶助 (扶助の取引) といった経済取引と関連していることが認められた。人間関係そのもののためだけでなく、経済取引全般にわたっても「関係」が埋め込まれていることが確認される。ただしA、C村では将来の返礼、B村では結婚式での返礼が負に相関している。返礼というあからさまな取引は恥だと思われて、むしろ「関係」を評価する人ほど低く評価しているのかもしれない。

中国農村で伝統的に培われてきた儒教に基づく「関係」は、決して非合理的なものではない。農民の工夫の結果として経済取引に組み込まれ、取引費用節約という合理的行動に結びついているのである。農民の伝統を生かした合理的な新農村建設が期待できるのである。資本蓄積と同じく、社会関係を培うことは「関係」の蓄積として将来的な経済取引の基盤となるものである。



表4 農地貸借の経済的要因

a 血縁・友人に貸したい要因 (OLS)		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	血縁・友人に貸したい	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		0.871	1.669	1.087	2.423	1.267	2.544**
人情があるから		0.277	1.941*	0.597	4.529***	0.002	0.019
面子があるから		0.227	1.665*	-0.164	-1.333	-0.073	-0.635
血縁なら口頭契約でよい		0.054	0.388	-0.081	-0.732	0.512	4.848***
血縁だとトラブルない		0.018	0.122	0.000	-0.002	0.019	0.139
低料金でも血縁がよい		0.184	1.506	0.249	2.064	0.090	0.755
R <sup>2</sup>		0.263		0.381		0.336	
b 血縁・友人に貸したい要因 (カテゴリ)		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	血縁・友人に貸したい	標準化係数	F 値	標準化係数	F 値	標準化係数	F 値
人情があるから		0.352	5.910***	0.591	22.432***	0.149	1.416
面子があるから		0.206	2.225*	-0.195	3.445**	-0.150	1.672
血縁なら口頭契約でよい		0.186	2.350	-0.170	2.316	0.576	16.555***
血縁だとトラブルない		-0.015	0.014	-0.103	0.886	0.083	0.332
低料金でも血縁がよい		0.174	1.889	0.338	7.477***	0.062	0.286
R <sup>2</sup>		0.244		0.522		0.371	
c 血縁・友人から借りたい要因 (OLS)		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	血縁・友人から借りたい	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		0.019	0.040	0.491	1.249	-0.175	-0.287
人情があるから借りる		0.472	3.503***	0.376	3.064***	0.400	2.984***
面子があるから借りる		-0.080	-0.532	0.113	0.781	0.112	0.818
血縁なら口頭契約でよいので借りる		0.160	1.221	0.168	1.490	0.131	0.817
血縁だとトラブルが少ないので借りる		0.168	1.067	0.103	0.819	0.261	1.326
高料金でも血縁から借りる		0.203	1.709*	-0.114	-0.870	0.197	1.416
R <sup>2</sup>		0.388		0.293		0.305	
d 血縁・友人から借りたい要因 (カテゴリ)		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	血縁・友人から借りたい	標準化係数	F 値	標準化係数	F 値	標準化係数	F 値
人情があるから借りる		0.693	47.918***	0.478	14.901***	0.356	12.289***
面子があるから借りる		-0.161	2.901**	0.080	0.472	0.242	5.527***
血縁なら口頭契約でよいので借りる		-0.127	1.612	0.255	3.824**	0.326	4.667**
血縁だとトラブルが少ないので借りる		0.358	14.695***	0.130	1.126	0.183	1.510
高料金でも血縁から借りる		0.209	5.581***	-0.090	0.550	0.395	15.860***
R <sup>2</sup>		0.593		0.335		0.544	
e 「関係」を評価する要因 (OLS)		A 村		B 村		C 村	
被説明変数	関係は大切と評価する	係数	t 値	係数	t 値	係数	t 値
(定数)		1.560	2.656**	2.737	3.741**	2.011	4.078***
人情に裏付け		-0.064	-0.696	0.014	0.081	0.147	1.122
面子に裏付け		0.312	2.708***	0.117	0.827	0.025	0.180
結婚式などに参加してくれる		0.085	0.760	-0.205	-1.659	-0.043	-0.514
将来の返礼を期待		-0.142	-1.477	0.130	1.121	-0.189	-1.952**
農地貸借でのトラブル少なくなる		-0.004	-0.046	0.178	2.207**	-0.046	-0.487
農作業のユイに役立つ		0.181	1.106	-0.020	-0.158	0.003	0.023
無利子の借金を借りやすくなる。		0.128	0.932	0.180	1.417	0.251	2.493**
緊急時に金銭以外でも助けてもらえる		0.021	0.213	-0.060	-0.377	0.265	2.127**
成功のオスソワケ (沾光) をすべき		0.043	0.425	0.008	0.080	-0.010	-0.112
R <sup>2</sup>		0.188		0.016		0.344	

表5 「関係」評価のカテゴリ回帰

A 村	標準化 係数	F 値	B 村	標準化 係数	F 値	C 村	標準化 係数	F 値
面子に裏付け	0.462	16.477***	結婚式などに参加してくれる	-0.306	4.247**	人情に裏付け	0.229	3.711*
将来の返礼を期待	-0.346	9.593***	面子に裏付け	0.159	1.233	将来の返礼を期待	-0.296	7.700***
農地貸借でのトラブル少なくなる	0.043	0.154	将来の返礼を期待	0.250	3.361**	農地貸借でのトラブル少なくなる	-0.088	0.605
農作業のユイに役立つ	0.318	7.039***	農地貸借でのトラブル少なくなる	0.341	6.335***	無利子の借金を借りやすくなる	0.431	14.066***
緊急時に助けてもらえる	0.006	0.003	無利子の借金を借りやすくなる	0.295	5.056***	緊急時に助けてもらえる	0.342	8.544***
R <sup>2</sup>	0.357		R <sup>2</sup>	0.135		R <sup>2</sup>	0.494	

## 5. おわりに

農地流動化の需要と供給は実際あることがわかった。そしてその際に取り費用の高さが問題となることも確認された。将来的にさらなる需要と供給によってさらなる流動化が求められる事態になっても、農民の伝統的な慣習、つまり「関係」が十分利用され取引費用が節約されれば、それに対応していくことができる。中国農民だけでなく、中国農村社会も弾力的なのである。長い歴史の中で蓄積されてきた「関係」は、農地資源の保全のために、非合理的な慣習として足を引っ張るのではなくむしろ保全を促進していく資源なのである。農村の伝統を尊びながら改革を進めていくことが、まさに新農村建設となるのである。

## 注

- 1) 文献〔2〕を参照。
- 2) 文献〔1〕、〔3〕、〔4〕を参照。

## 参考文献

- 〔1〕 浅見淳之「中国農村のインフォーマルな社会制度に埋め込まれた経済取引」『農業経済研究』第80巻第4号、174～184頁、2009年
- 〔2〕 浅見淳之「中国の農業構造問題と農地制度のゆくえ」『農業と経済』6月号、68～72頁、2009年
- 〔3〕 Yan, Y., *The Flow of Gifts Reciprocity and Social Networks in a Chinese Village*, Stanford University Press, 1996.
- 〔4〕 Yang, M., *Gifts, Favors, and Banquets: The Art of Social Relationships in China*, Cornell University Press, 1994.

## 付記

2009年に、筆者は李妍蓉（大学院博士課程）と共同で湖南省の農地流動化に関する調査を行った。その結果を中国・中南大学（長沙市）で報告したが、本稿はそれを日本語に翻訳したものである。

（受理日 2012年1月12日）